

Rotary International District 2800

山形西ロータリークラブ会報

会長：遠藤 靖彦 幹事：武田 良和

地区目標

ロータリーにもっと誇りを
そして学び DEIの心を持って行動実践しよう

クラブテーマ

ロータリーを楽しみ、仲間と絆を！

◆点鐘：遠藤 靖彦 会長

◆ロータリーソング：奉仕の理想

◆司会：長澤 純 S.A.A.

◆会場：パレスグランデール



第3030回例会

令和6年10月28日(月)

会長あいさつ

遠藤 靖彦 会長



10月を振り返ってみますと、ロータリーを通していろんな活動、出来事がありました。一番最初の10月7日の例会がガバナー公式訪問例会ということで、ガバナーにお越しいただきました。その日の夜、指名委員会というものが開催されまして、次々年度、その次の年の会長の選考というものが行われました。

10月21日、「それぞれの最上川物語パート2」ということで、2800地区としてそれぞれの最上川物語を3年継続して続けていきたいという方向性が出ましたので、今年、最上川に関わる支流として馬見ヶ崎の清掃活動をさせていただきました。本当に早朝から多くの皆さまにお集まりいただきまして、大変ありがとうございます。芋煮が佳境に入ってほぼ終わりになる時期ですので、もっとゴミが多く落ちているのかなと思ったのですが、ほとんどないという状況でありました。どうやらボランティアの方々とかシルバー人材の方がいろいろと清掃活動もしていただいているという話を伺いましたので、そういう意味で馬見ヶ崎は本当にきれいに保たれているのかなという、ある意味関心をさせていただきました。

今月、樹氷に関わるいろいろな動きが西ロータリーとしてあったということをぜひ皆さまにご報告をさせていただきたいということで、会長挨拶の中でその状況について説明させていただきたいと思っております。西ロータリーとして樹氷に関わり出したのは、おととしの6月頃であります。おととしから昨年の2月のIMに向けていろいろな検討を重ねてまいりまして、IMの中で樹氷の問題を取り上げたいという当時の市村会長の強い思いから、IMのテーマを樹氷の問題というふう位置付けて、まず西ロータリーとして6月頃にその現状を見に行こうという例会を開催しました。そして昨年2月、IMにおいて樹氷の問題をテーマにしてその講演会、そしてパネルディスカッションというものを開催いたしました。長澤会長の年、昨年の6月からの流れの中でオオシラビソ、アオモリトドマツの植樹をやっていたということで、苗床作りをして、そして今年の初めに山頂において何本かの植樹と植樹えをやったというような状況であります。今現在、2万5千本から3万本近くのアオモリトドマツが枯れた状況になっているというのが現状であります。

この活動を、実はガバナーの公式訪問の前の会長幹事との懇談会でガバナーに報告をさせていただきました。とい

うのは、ガバナーの思いとしてチャリティーの何かをやっていきたくてということで、今年度の行事の中にチャリティーゴルフというものがあります。そのチャリティーで預かったお金をどうしようかということ今年度のガバナーとしても検討して、ガバナーとしてやはり自分の地域の活動に、また地域のためになるものにチャリティーをしていきたいということで、チャリティーゴルフ自体が、樹氷に対するチャリティーをするゴルフコンペをするという位置付けになりました。これを伺ったうえでそのチャリティーの一部をなんとか西ロータリーにもいただけないかとお願いをさせていただきました。そのお願いの中で西ロータリーとしてこのような活動をしていますよということ、おとしの春からの活動を含めていろいろな経緯を表にさせていただき、またこれまでの活動の写真というものを付けさせていただいて、これは酒巻委員長からご苦労して作っていただいたのですが、それをガバナーのほうにもお渡しをさせていただきました。

いろいろな活動の中で、県のみどり自然課のほうからアポイントがありまして、西ロータリーの活動を取材させていただきたいということで、10月15日、酒巻委員長と山頂に登りまして、西ロータリーとしての活動を紹介させていただき、それが27日の5時からの『やまがたサンデー5』という番組でちょっと紹介をされました。これにつきましては、YBCの『やまがたサンデー5』のYouTubeを見させていただきますと、諸々活動している方々の活動と、最後のほうに私がちょこっと出させていただいて、西ロータリーとしてこういう活動をしていますということを紹介させていただいたという状況になります。そのような状況もありますので、ぜひまだ山頂のほうでのこの活動に関わっていない方は、今後の活動にぜひご協力をいただければありがたいなというふう思っております。

26日に、有志の方々と登っていただき、これまでやっていた苗床の枠を外したり、そういう作業をしていただきました。来年の雪が解けたあとの春先にはまた新たなところに植樹なり種植えを進めてまいりたいなというふう思っております。今年度の動きの中では、昨年度長澤会長のもとで活動していただいたものの継続と、そして新しい箇所への植樹、そして種植えというものを進めていこうということで、酒巻委員長といろいろ準備していただいております。

また、西ロータリーだけではなく、ここにもう少しほかの団体の方々なり、そういう方々にも協力をいただきながらの活動に広がっていきたくてという思いを持って進めてまいります。ぜひご理解のうえ、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

幹事報告

武田 良和 幹事

- 本日は12月2日の年次総会に関わる案件につきまして遠藤会長より発表がございますので、そちらを先にお願ひしたいと思います。

遠藤靖彦会長

年次総会というのが12月の頭にあります。その概ね1カ月前の例会において、指名委員会の指名した次々年度会長候補者および次年度副会長候補者、次年度の会長エレクトと次年度の副会長について指名を発表しなければならないという細則がございます。11月の例会が18日になってしまいますので、今日その発表をさせていただきます。

次々年度会長、いわゆる次年度の会長エレクトにつきましては富田浩志さん。そして次年度の副会長、3年後の会長候補者というふうにカッコで細則にも書いてありますが、こちらにつきましては遠藤正明さんということで本日発表させていただきます。12月の総会において皆さまからの承認をいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひを申し上げます。

また、会長エレクトが次年度幹事、会計、および4名の理事候補者を指名し、これも概ね1カ月前の例会においてということになっております。こちらにつきましては次年度、五十嵐会長より候補者の発表をお願ひ申し上げます。

五十嵐信次年度会長

それでは次年度の理事および幹事、会計の発表を申し上げます。

理事として半田稔さん、武田岳彦さん、渡辺隆博さん、酒巻雅樹さん。幹事として武田秀和さん。会計として及川善大さん。こちらにお願ひしたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

- 新入会員をご紹介します。那須暢史さんです。よろしくお願ひします。

新入会員紹介



那須 暢史 さん
《那須建設株式会社》

皆さん、こんばんは。那須建設の那須と申します。このたびは歴史と伝統のあるこの山形西ロータリークラブの入会に対して皆さまからご承認をいただいたということで、心より感謝を申し上げたいと思ひます。ありがとうございます。

伝統と歴史と、そして格式の高いこの山形西ロータリークラブで大勢の方々と交流し、自分自身を成長させたいと思ひまして入会させていただきました。まだ2年目の未熟な社長でございますが、本当に皆さまからご指導ご鞭撻をいただきながら成長していきたいと思ひますので、よろしくお願ひ申し上げます。



ニコニコ BOX

〈10月28日〉

遠藤靖彦会長／那須さんの入会ありがとうございます

那須さんの入会を祝してニコニコします。また21日の清掃活動には多くのメンバーの皆さまに参加いただきましてありがとうございました。

武田良和さん／蔵王の樹氷再生プロジェクト

10月26日、小さな苗木たちが冬を越すために作業に参加された皆さま、大変ありがたく、お疲れさまでした。とても長く地道な取り組みですが、皆さまの思いが県全体に広がると思ひます。今後ともよろしくお願ひします。

長谷川浩一郎さん／新入会員を歓迎して

先週は千歳大策さん、今週是那須暢史さんが晴れてご入会。当クラブのますますのご活躍を祈念し、スポンサーの方へも感謝し、ニコニコします。

安部弘行さん／『提言の広場』に出演します

本日、芸工大にて、11月2日今週土曜日の収録をさせていただきました。芸工大の学生が新しく会社を立ち上げ、地域課題を解決していく内容です。どうぞご覧ください。ニコニコします。

高橋勝治さん／孫娘がピアノ演奏

山形三中1年生の孫娘が合唱コンクールでピアノをやりました。優秀賞となりました。ちなみにタクトは吉田昌弘さんのお孫さまでした。

委員会報告



職業奉仕委員会

山科 宏幸 さん

先週10月21日に皆さま方のご協力をいただきながら「それぞれの最上川物語パート2」ということで、早朝清掃を行いました。50名の皆さま方からお集まりをいただき、天候にも恵まれて、気持ちの良い朝の清掃ができたかなと思ひます。会長からもありましたとおり、山形市民の志の高さで、ゴミがあまり落ちておりません、楽しくと言うのでしょうか、清々しい気持ちで清掃をさせていただいたと思ひます。皆さま方のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございます。



米山奨学・学友会について

芦野 茂さん
《米山奨学会委員長》

皆さん、おぼんでございます。本日は米山月間ということで、このように大切な皆さまのお時間を私ども米山委員会のほうにご説明をさせていただく機会をいただきまして誠に感謝申し上げます。

私事ですが、昨年まで地区の米山委員長を3年間務めさせていただき、今年度は米山委員長の補佐ということで、委員会の活動の場を与えていただいております。諸先輩方を前にして米山事業のことをご説明するのは甚だ僭越ではございますが、プログラム委員会からのご指名ということで説明させていただきたいと思っております。

まずは軽く米山記念奨学事業とはどういったことかということで、3つ説明させていただきます。ロータリー米山記念奨学事業は、日本のロータリーが作り、育てた独自の事業で、34地区全地区が参加する多地区合同活動と申します。ですので、RIのほうに「米山委員会だよ」と言っても全然通用しません。「財団だよ」と言うとRIのほうでは通用いたしますけれども、これは日本独自のもので、海外に行っても全然通じないのかなというふうに思っております。この事業は1952年に始まって以来、一貫として日本で学ぶ外国人留学生を支援しております。公益財団法人ロータリー米山記念奨学会というものはこの事業を行うために日本のロータリーが共同して運営する奨学財団で、財源はすべて皆さまからのご寄付をいただいております。

この奨学事業の最大の特徴は、世話クラブカウンセラー制度という制度でございます。米山奨学生には世話クラブの例会や活動に参加していただき、交流することを大切にしております。カウンセラーを経験した方からは「クラブ全員でお世話することでクラブの結束力がアップした」、「家族が増えたような気持ちになり、国際交流の理解が深まった」など、大変いい意見をいただいております。

ロータリー米山記念奨学金は、日本のロータリーの父、米山梅吉翁の名前を貸した事業です。と言いましても、梅吉さんの財産で作られたものではございません。ただ名前を借りているだけということになります。米山梅吉翁は1868年、ロータリーの創業者、ポール・ハリスと同じ年に生まれました。米山梅吉がアメリカ在住中に、先にグラスロータリークラブの会員となっていた日本人の福島喜三次と出会い、1920年に日本で最初のロータリークラブ、東京ロータリークラブを設立いたしました。終戦翌年の1946年、米山梅吉さんが亡くなりました。3年後、1949年、戦争のため解散を余儀なくされた日本のロータリーが国際ロータリーへ復帰いたします。当時の日本はまだ食糧事情もままならず、会員たちはクラブへ行き、お茶を入れてもらい、弁当を持参して、ストーブを囲みながら熱心に議論をしたそうです。そして1952年、東京ロータリークラブの古澤文作さんが会長の時に

「米山基金」の構想を発表いたしました。これは、当時アジアから優秀な学生を招いて学費を援助するとともに、二度と戦争の悲劇を繰り返さないため、平和日本を肌で感じていただきたいなということで作りました。この米山基金がわずか5年で日本の全ロータリークラブの共同事業となり、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。

先ほど申し上げたとおり、日本独自でされているものですから、RIとの関係を少し説明させていただきたいと思っております。2004年11月にRI理事会で奨学金の授受を通し世界理解と平和に貢献されている財団法人ロータリー米山記念奨学会を称賛するとされ、ロータリー米山記念奨学会が多地区合同活動にて同じマークを用いて活動することができる手続きを取りました。ほんとは最近まではRIに入っていないと、2002年から2004年に認めるまでは独自のシンボルマークを付けて活動をいたしました。ただ、2007年には多地区合同として手続きを行い、新たにロータリーバッジを着けながら活動できることを、手続きが終わったということですね。

米山奨学生について少しご説明させていただきます。米山は外国人留学生を対象とする民間奨学金では国内最大規模でございます。2024年学年度は日本全国で926人（前年度900人）が採用され、各クラブではお世話をいただいているということでございます。累計では今年2カ国増え、世界133の国と地域から24,133人を支援していただいております。こちらが奨学生の国と奨学生の人数を表したところです。最近では中国、韓国、台湾が多いですが、ここ数年でベトナムからの留学生が急増しており、現役学生の中では中国に次いで多くを占めております。

それでは奨学生の選考ということで、どうやって選ぶのかなというふうなことを少し説明させていただきます。さて、米山奨学生の採用は全国統一の基準がございます。将来の目標、留学の目的がきちんとしているかどうか、交流への熱意があるかどうか、人柄の良さ、コミュニケーションの能力の高さ、詳しい評価項目は公表してございませんが、全国統一の評価項目を使って各地区の選考委員会が面接選考を行います。今年は11月30日にホテルメトロポリタンのほうで選考試験を行うことになっております。今、17名ほどから応募をいただいております。これがただいま当地区で米山奨学生を受け入れている形になります。12名。継続学生が4名、あと7名が新規ということとなっております。

それでは皆さまからお預かりしております寄付をどのような形で運営しているかというご説明させていただきます。昨年度、2023年-24年度の寄付収入は14億4,568万円と、その前の年から2,300万円ほど増加となりました。上段、グリーン色の有価証券の配当金は事前の取り決めにより奨学金のみに使用してございますが、皆さまのご寄付のほとんどは奨学金に使われておりますが、例えば地区世話クラブへの補助費、事業部門の職員人件費などにも一部使わせていただいております。米山奨学事業は規模が非常に大きい事業であるにも関わらず、管理費は支出のわずか3%でございます。超低金利の時代ということもあり、管理費が利子収入を超えてしまうこともございますが、基本的には利子収入で賄っていくように努めております。

米山奨学金の寄付の種類をご説明させていただきます

す。米山奨学会で寄付は大きく2種類です。クラブから全員数分を集める普通寄付と、それ以外に個人、法人、クラブから任意で出す特別寄付金がございます。本日皆さまからお預かりしている寄付は特別寄付の部に当たります。普通寄付はかつて米山奨学会が財団法人を設立とした際、当時の文部省はなかなか首を縦に振ってくれませんでした。そこで普通寄付の確約を国内全クラブからいただき、安定財源とすることを約束したことにより、ようやく財団法人設立の認可が下りたという経緯がございます。特別寄付は任意でしていただくものです。こちらは個人やクラブ、法人の実績となり、表彰の対象となります。米山奨学会への寄付は寄付金の控除の対象となり、確定申告をすれば、所得税、法人税の税制優遇を受けることができます。

これは地区別の個人平均寄付額でございます。昨年度の全国平均は17,293円で、昨年よりも高い平均額となりました。最も高額だった寄付は2760地区の愛知県で、36,935円でございます。ピンクの矢印のところはわが地区ということで、11,410円、34地区の第27位と、下のほうにまだ7クラブほどいる状況になっております。もう少し詳しく見ていただきますと、こちらが当地区、右側が全国地区平均というふうになっております。

次は特別寄付の割合です。棒の高さは会員数の多さを表しております。会員の中で個人として特別寄付をした人の割合が黄色い部分でございます。全国トップは2840地区の群馬県で、84.7%もの会員から特別寄付をいただいております。地区奨学生採用アップにもつながります。皆様のご協力をお願いできればというふうに思っている次第でございます。

こちらがまた山形西ロータリークラブの2023年—24年度の寄付額になります。合計金額が177万2,500円。普通寄付が、これは100名で計算しております、50万7,500円、特別寄付が126万5千円。個人平均が17,549円ということで、全国の17,293円を上回りましたことを皆さまにご報告申し上げたいというふうに思っております。寄付率が100名で計算すると55.4%、地区総合では2800地区で第2位となっております。皆さまには大変感謝を申し上げたいと思っております。

では巣立った奨学生はどのような活動をしているか申し上げたいというふうに思います。巣立った奨学生のOB組織を「米山学友会」というふうにいいます。今は地区のほうでは米山奨学学友委員長という2つの役を担っております。日本には33、海外には10カ所あります。2023年5月に新たにベトナム南部ホーチミンを拠点とするベトナム南米山学友会が設立され、承認されました。日本は全部で34地区ですが、北海道が2つに分かれておりますので、そこを1つというふうに考えて33ブロック、学友会というふうになっております。ですからこの東南アジアのほうでは「米山」と言うと大体ほとんどが通用するかなというふうに思っていますが、アメリカ、ヨーロッパとかでは米山というのはまだまだ認識が薄いかなというふうに思っております。そんな中で、台湾学友会、再来年世界大会がこの台湾のほうでありまして、昨年は日本で、つくば

のほうでやって私も参加させていただきましたけれども、この台湾でその学友会の会があるということで、米山に熱心な方は行かれるのかなというふうに思っております。

これは韓国の学友会、韓国の学友会では2016年から韓国へ留学する日本人の若者へ奨学金の支援をしていただいております。今年は8人採用していただき、すでに50人もの日本人を支援してござっております。私もご挨拶させていただいたのですが、大変感じのいい友好的な韓国学友会の皆さまでございました。昨年つくばで行われた時も日本にいる韓国の学友会の方が中心となって大変盛り上げていただいております。

こちらのモンゴル学友会は2024年に創立10周年を迎えました。7月に学友会からロータリアンへ「親孝行」というテーマで記念式典が開催され、日本から多くのロータリアンや学友会など合わせて140名集まりました。こちらはジャンチブさんという方で、日本では大変有名な方で、北クラブ出身で、酒巻さんが世話クラブのファミリーで今も大変友好的なことをしていただいております。酒巻さんにも大変力になっていただいております。ちなみに酒巻さんは今年の夏モンゴルへ行ったそうです。

最後にわがクラブの累計の寄付額ということで、今までずっと米山基金を集めていただいていた中で、5,600万円ほど累計でご寄付をいただいております。先ほど大場さんに尋ねたところ、クリエイティブのうちでは新築2軒分くらいですねなんていうふうな冗談話をしたところでございます。これは2800地区では第1位ということで、第2位は北クラブさんで、4千万円でした。そのくらいなのですけれども、西ロータリーでは5,600万円ということで、大変高額な金額をお預かりしているということで、ご寄付をいただいているということで、大変感謝されております。

余談ではございますけれども、こちらは米山梅吉記念館。昨日、私は三島のほうに米山奨学生と一緒に研修で行ってまいりまして、このように2部屋、記念館というのでもっと大きいと思いましたが、私は2回目なのですけれども、そんな感じで3部屋ですかね、があります。こちらが日本で初めてロータリアンの福島さんで、その真ん中が梅吉さん、こちらが一番左側が当時のRIの会長になります。あと、こちらに見えるのが、歴代ガバナーの名前が全部刻まれています。もちろん細谷先生も、栄次郎さんも、豊田儀一さんのお名前もちゃんと見つけてまいりました。これが、米山梅吉記念館の外に米山梅吉のお墓がございます。これ、本山は鶴見区の總持寺なのですけれども、そこから分骨をしてこちらのほうに、母親の実家のほうに分骨をしたという言い伝えとなっておりますが、実際にお骨のほうはどうかと学芸員の方がおっしゃってまいりました。

以上、米山奨学事業についてご説明させていただきました。ありがとうございました。

本日出席 (10 / 28)	会員総数	出席会員数
	106名	60名